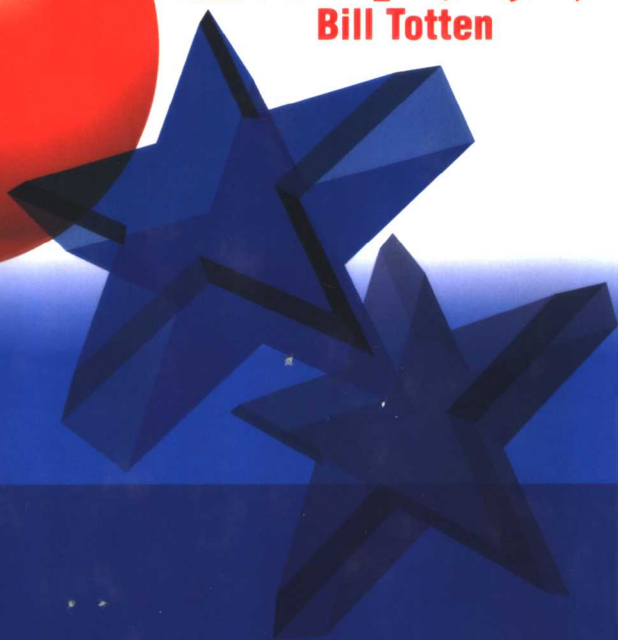


脱アメリカ』が 日本を 復活させる

株式会社アシスト社長

ビル・トッテン

Bill Totten



徳間書店

「脱アメリカ」が 日本を 復活させる

株式会社アシスト社長

ビル・トッテン

Bill Totten

徳間書店



01 7C5月15日

07 年05月15日

RB

ビル・トッテン (Bill Totten)

1941年、米国カリフォルニア州ロングビーチ生まれ。南カリフォルニア大学で経済学博士号を取得。1972年に日本で株式会社アシストを設立、代表取締役役に就任。コンピュータソフト業界屈指の会社に成長させた。現在、京都市に住む。

著書に『アメリカ型社会は日本人を不幸にする』（大和書房）、『アングロサクソンは人間を不幸にする』『消費不況 こうして突破する！』『必ず日本はよみがえる！』（PHP研究所）、『日本は悪くない』（ごま書房）などがある。

<http://www.ashisuto.co.jp/> から「ビル・トッテンのページ」をご参照下さい。

「脱アメリカ」が日本を復活させる

第1刷——2000年10月31日

著 者——ビル・トッテン

発行者——徳間康快

発行所——株式会社徳間書店

〒105-8055 東京都港区東新橋1-1-16

電話 (03)3573-0111(代)

振替 00140-0-44392

(編集担当) 松崎之貞

印 刷——株式会社清菱印刷

カバー——半七写真印刷工業株式会社

製 本——ナショナル製本協同組合

©2000 Bill Totten, Printed in Japan

乱丁・落丁はおりかえ致します。

Ⓐ[日本複写センター委託出版物]

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

本書からの複写を希望される場合は、

日本複写センター(03-3401-2382)にご連絡下さい。

ISBN4-19-861255-2

「脱アメリカ」が日本を復活させる

はじめに

「自由と民主主義の国」「勝利と栄光の国」「努力した者が報われる国」「夢の大陸」「アメリカンドリーム」……アメリカを形容する言葉の多くは明るく、希望に満ち溢^{あふ}れている。これらの言葉を耳にした者は誰もが心弾ませ、文字どおり「夢の国・アメリカ」に思いを馳せるだろう。

しかし、私に言わせればこれらはすべて偽りである。真実を何ひとつとして語っていない。「不平等」「甚だしい貧富の差」「拝金主義」「無秩序・無規範」「弱肉強食のジャングル」「犯罪大国」……まだまだ浮かぶが、この辺でやめておこう。アメリカを表現するのに真実を衝^ついているのは、まさにこれらの言葉なのである。

なんと極端なことばかり言う。我々日本人が長年、目標とし、憧れ続けてきた希望の国がそんなはずではないか。それこそ偏見、偏った捉え方だ——。大方の日本の人たちの反応はこういうものだろう。彼の国^かの「力」に一抹の不安を抱いているとしても、その不安はかつてのソ連や中国に対するそれとはどこか違って思うように思う。なぜか無条件、無批判

のまま「アメリカはすばらしい国」と思っている人が多いように思うのだ。

しかし残念ながら、いまの私には、アメリカを形容する前向きな表現は一つも浮かばない。私が並べ立てた言葉が嘘か真実か、極端なものかの的を射たものか、判断は読者諸氏に委ねるが、少なくともその判断は本書を最後まで読んでから下していただきたい。

アメリカがいかに危険な国か、そして、日本がこのままアメリカを追い続けることがいかに危険で愚かなことか、本書を読み進めていただくうちに、私の真意は伝わるものと信じている。

二〇〇〇年九月

ビル・トッテン

「脱アメリカ」が日本を復活させる

目次

第一章

異質の国・アメリカ

日本とアメリカ、どちらが異質か.....	11
アメリカの真意.....	13
日本の中のアメリカ的な人々.....	16
アメリカのコンプレックス.....	21
ヨーロッパの反米感情.....	26
盗聴システム「エシュロン」の実態.....	29
日本は本当に主権国家なのか.....	33
日本はアメリカに遠慮しなくていい.....	36
真珠湾攻撃に仕掛けられたワナ.....	38
F・ルーズベルトが行なった悪魔の工作.....	42
危険な「アメリカ崇拜」.....	46
	51

第二章

日本再生への道

57

IT株バブルは日本墮落の証

59

アメリカはヤクザと変わらない

62

日本はまだまだ食い物にされる

65

日本は原点に戻って再出発を

68

コロンブスに見るアメリカの精神

72

巧みなプロパガンダの一例として

76

アメリカの支配者の正体

80

アメリカには文化が育たなかった

84

日本が日本であるために

87

第三章

いまこそ求められる「脱アメリカ」

93

銃社会アメリカのどこがいいのか

95

「アメリカの精神」の正体

98

第四章

世界に誇るべき 日本の文化と伝統

服装に見る日本人の自虐史観	103
日本の気候風土に合った服を着るべきだ	107
叩頭外交が日本人をダメにしている	109
沈む船からはネズミだって逃げ出す	112
お金優先の世の中は恐ろしい	116
山口組とたばこ会社はどちらが悪いか	119
愛国心について考える	122
京都の楽しみ	127
優しい町を残す大切さ	132
私が田舎を好きな理由	135
日本の都会はミニ・アメリカ	138
身土不二は正しい	142
キリスト教にある危険思想	144

第五章

日本が目指すべき社会

キリスト教を受け入れなかった日本は正しい	148
坂本龍馬と勝海舟は日本の裏切り者	151
日本の歴史上で最大の危機はいま	155
日本人が日本人であるという意味	159
そのうちに空気も有料になる	162
競争社会は多くの人を不幸にする	169
企業本来の役割とは何か	172
GDPよりGNH	175
狩猟民族vs農耕民族の図式は永遠に続く	178
「脱アメリカ」は社会消費から	182
日本が目指すべきはエコロジー社会	186
経済のグローバル化は本当に正しいのか	191
選挙に行こう	195
経営者は善人でなければならない	198

日本は理想国家だった	201
必要なのは「脱アメリカ」の決断	205
資本より人を重視する	208
日本のやり方で十分いける	212
あなたが立ち上げれば日本は変わる	215

第一章

異質の国・アメリカ

日本とアメリカ、どちらが異質か

日本で暮らすようになって、もう三十年以上が過ぎた。国籍こそアメリカのままだが、私はもうあの国に帰る気はない。アメリカ人であっても、日本で生涯を終えるつもりでいる私は、日本人になったも同然だと思っている。

ところがここに来て、困ったことが起き始めた。私の終の住み処となるはずの日本が、どんどん悪くなっていく。特にここ数年來は、目に見えてひどいことになってきた。しかも皮肉なことに、その元凶は私の祖国アメリカなのである。

日本は、アメリカを真似れば真似るほど悪くなる。このままアメリカの言いなりに国を運営していったなら、日本に未来はない。

これまで日本は、急激なアメリカ化に、なんとか抵抗してきた。日米の貿易不均衡を理由に、アメリカが執拗に規制緩和を迫ってきたときも、遠慮がちにはあったが、どうにか身をおろそうとさまざまな努力をしてきた。それはおそらく、日本のリーダーやそのブレーンたちが、「アメリカのやり方」の中に潜む危険の上ないにおいを、敏感に感じ取っていたからではないかと思う。

その直感は正しかった。

しかし日本の抵抗は、アメリカの強引な攻撃に耐えられず、もろくも押し切られてしまう。一九九八年四月からの金融ビッグバンのスタートは、その日本の抵抗の敗北宣言のようなものだった。あのとき以来、もう日本の抵抗はなきに等しい。アメリカの望むまま、あれよあれよという間に、アメリカによる日本の「民族浄化」が進んでいった。

本来の日本人などいない。アメリカの価値観に染められた日本人でなければ、日本ではもう生きていけないのだ。あの金融ビッグバンはそういう意味を持っていたと思う。つまり、あれは単なる金融システムの話にとどまらず、日本人の価値観や文化といった、より根本的なものに対するアメリカの侵略が、いよいよ本格化したという証^{あかし}なのである。

民族の浄化はコソボの専売特許ではない。それを強く非難して空爆を始めたアメリカこそが、むしろ本家だ。先住民のインディアンを根絶やしにして建国し、現代もまた違った形で、日本民族を含むあらゆる民族を、インディアンときと同じく浄化しようとしているではないか。

こういうときの、それと気づかせず侵略を進めるアメリカの手口は、実に巧妙である。お人好^よしの日本人など、簡単にだまされてしまう。だまされるばかりか、アメリカの後押しさえする人がたくさん出てくる。